



インターネットでの情報提供

提供予定年月日 平成20年11月5日

平成20年11月4日		県政記者クラブ配付資料	
担当課	担当	担当者氏名	電話番号
森林研究所	森林環境部 森林環境部	おおほら ともひろ 大洞 智宏 よこい しゅういち 横井 秀一	0575-33-2585

国際森林研究機関連合の研究者が関ヶ原町の今須択伐林を視察しました。

国際森林研究機関連合（IUFRO）^(※1)の異齢林研究部会のワークショップが平成20年10月24日から27日まで静岡県静岡市において開催されました。

その翌日、異齢林を研究する各国の科学者達が、現地視察として、日本の異齢林の代表である岐阜県不破郡関ヶ原町今須地域の択伐林^{いますたくばつりん}を訪問しましたので、その概要をお伝えします。

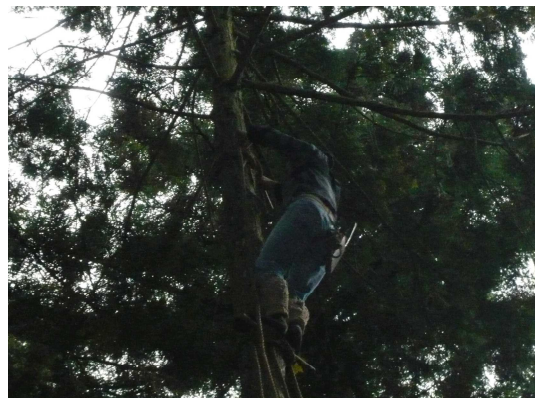
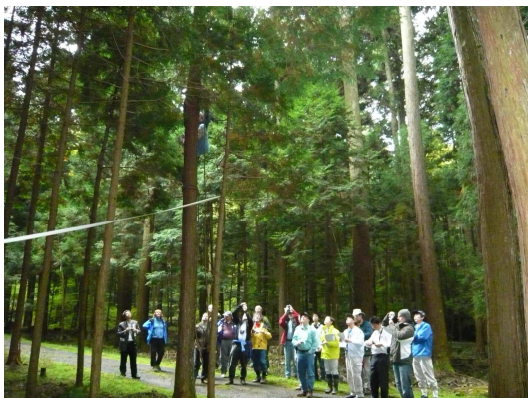
※択伐林とは、一つの山に幼木から百年を超える木が混在する人が植えてきた人工林のことを言い、岐阜県不破郡関ヶ原町の今須択伐林の他、日本に数ヶ所存在します。

科学者達は、今須択伐林の歴史、技術、森林の状況等について地元林業技術者や県森林研究所研究員から説明を受けた後、説明者へ専門性に溢れる鋭い質問を浴びせていました。

海外の科学者達には、岐阜県の事例が、生物多様性に繋がる自国の異齢林研究に大いに参考になったようです。

記

- 1 日時：平成20年10月28日（火） 13:30～16:30
- 2 会場：^{いますたくばつりん}今須択伐林（岐阜県不破郡関ヶ原町今須地内）
- 3 主催：IUFRO（International Union of Forest Research Organizations：国際森林研究機関連合）
- 4 視察：7カ国の森林科学研究者18名が参加（カナダ3人、アメリカ3人、エストニア3人、フィンランド2人、中国3人、ルーマニア1人、日本人3人）
- 5 内容
 - 一行は、岐阜県不破郡関ヶ原町^{やまもとこうじ}を訪れ、異齢林である今須択伐林を3時間にわたり視察した。
 - ・ 地元の林業者である山本晃治氏から、枝打ち作業の実演及び今須林業について説明。
 - ・ 岐阜県森林研究所職員から択伐林に関する調査結果等について説明。



(※1) 国際森林研究機関連合 (IUFRO=ユフロ) について

- ①設 立：1892年に設立されたNGO組織
 - ②本 部：オーストリア
 - ③目 的：林業や木材製品の研究を国際的に促進する。
 - ④構成員：110カ国の研究機関、大学の科学者15千人が加入。
 - ⑤部 会：25部会（成長、収穫、森林経営etc）から成る。
 - ⑥日 本：1976年にユフロ日本委員会発足
（日本事務局は独立行政法人森林総合研究所内（茨城県つくば市）
- 1) 日本における世界大会
 - ・1981年に第17回IUFRO世界大会（京都）開催
 - 2) 2008年の活動
 - ・全世界から会員が来日し、ユフロの部会が日本国内で開催されている。
 - ・その一環として、異齢林研究部会が、岐阜県の今須林業を視察した。

<参考> 今須林業（＝今須地域で行われてきた択伐を特徴とする林業）の概略について

- ①所在地：不破郡関ヶ原町今須地内（旧中山道今須宿）
- ②面 積：約1100ha
- ②特 徴
 - 1) 経営規模は零細であるが、一つの山に100年を超えるような大きな木や数十年の木から植えて間もない小さな木が混在している状態の人間が造り上げたスギやヒノキの森林（択伐林という）である。
 - 2) 注文に応じてスギやヒノキの立木を必要なだけ抜き伐りする。その際に、周りの大中小の立木を痛めないように木を伐り倒す高度な技術が求められる。
 - 3) 立木を伐った跡には、スギやヒノキの大苗（高さ1m程）を植える。
 - 4) 小さな木や中間の木が育つには太陽光が必要であるので、上方の大きな木の枝を打つ（枝打ちと言う）。この枝打ちには木を登る技術や木を傷めないように枝を切る高度な技術が求められる。
また、多雪地帯であることから、雪で倒れた幼木を起こす（雪起こしという）こともなされている。
 - 5) このように、今須林業地では、小規模な森林から持続的に木材生産が出来る労働集約的かつ高度技術型の森林経営が幕末頃から現在まで行われている。
しかしながら、今須地区では、輸入材、木材価格の低落等の要因により、こうした形態の森林は減少しつつある。
（このような択伐林業地は、全国に数カ所あるのみ。）